

独立警備歩兵才六十三大隊略歴

部隊長 陸軍少佐 堀田 一

年 月 日	概 要
	<p>編成完結の状況</p> <p>下旬 小東省轄域果に於て独立歩兵才三十八隊に於て鑄成は着手し 他五歩兵才ニ十大隊の主力を精幹とし、才十二才十三軍及騎軍才十 八部隊より転入に依り編成す</p> <p>編成完結の命ありしも転入者同集結せず</p> <p>林に才十二軍より転入者大郎同作戦の為集結し得ず</p> <p>大隊が任務を帯びて村米上陸島嶼地構築の舞、交通不便の地に前 進、後六月下旬或は七月上旬到着せるあり</p> <p>現地已算者入隊せりも、不即は鉄道沿線に於て教育中終戦となりて</p>

年月日	概
五月八日	<p>大隊主力位置に達せず。百景崩除せられしあり。又人員不足し中前出身者入隊り予足ありしも、到着せしが終戦となり。兵入着半の一部署程し得ざりしに終戦となり。</p> <p>部隊行動の概要</p> <p>編成完了せしむ</p> <p>宿野より海、編入地山東省諸城縣出發</p> <p>山東省陽泉到着。陽清線より飲道警備に任ず</p> <p>海陽縣附近対赤二陸軍師團陣地構築ノ為、一中隊を陽泉より飲道警備に任せしり。主力は陽泉出發、所在に延安匪を襲破しつ。</p> <p>五月二十七日、海陽縣長赤二川に到着。尔後延安匪の妨害を排除し、陣地を構築す。</p> <p>孫家大川附近に、延安系陽東軍區の根據地ありしを以て連日敵り妨害に依り、多数ノ戦死傷者を生じ、戦死下士官以下二十名、重傷大</p>

年月日	概
概	<p>隊長以下七ノ名ヲ生セリ</p> <p>中旬 膠済鐵道警備ノ一中隊ハ孫家大川ノ大隊ニ打位置ニ復歸す</p> <p>輸入者ハ 數次ハ直リ 之月下旬より七月上旬ハ直リ追及す</p> <p>現地百果者中未教育者ハ 山東省高密縣高家駅附近にて教育ヲ實施</p> <p>中終戦ト告リ 現地百果解除す</p> <p>陣地ハ概相克了セリ 八月十五日終戦ト告リ</p> <p>八月十七日 兩ハ膠済附近警備ノ為 孫家大川出發</p> <p>八月二十日 延定匪ノ為 數日前以來奪取セシ小川アリテ 膠済城ヲ攻</p> <p>奪奪回シ</p> <p>不敵 膠済駅附近膠済鐵道ヲ警備ニ任す</p> <p>状況ヲ變化ニ依リ 務農ヲ命ゼシハ膠済出發</p> <p>同日 山東省高密縣附近に到着 近山駅附近の膠済鐵道警備ニ任す</p> <p>中旬より青島へ中国方八連の上陸に伴ハ 延定匪に依リ同日鐵道の</p>

年月日	概略
昭 三 九	<p>破壊を受け、陣地の強化及之が修理に援助に任ず</p> <p>指日建設の警備中隊は、約一万人を擁護し、敵の進軍を阻止し、近距離の攻撃を受け、大勢の捕虜にして遂に奪取せしむ中隊長以下十人あり、行状不明者を生じ、戦死八、負傷一〇、突合、突合全焼の損害を被る</p> <p>兵隊より増援隊を行つ陣地の強化及復員軍官民の援護に任ず</p> <p>中国軍八軍進駐し、一月十三日警備を移譲し、同日岷山出發</p> <p>一月十四日高浜東高家到着</p> <p>一月十五日 武蔵解除完了</p> <p>一月十七日 青島集結の為、高家出發</p> <p>同日青島集結中隊到着</p> <p>二月二日内地帰還、再育開始</p> <p>二月七日佐世保上陸す</p>





年月日	<p>自昭 七 百</p> <p>至 八 百</p> <p>自 九 百</p> <p>至 一 百</p> <p>自 二 百</p> <p>至 三 百</p> <p>自 四 百</p> <p>至 五 百</p> <p>自 六 百</p> <p>至 七 百</p> <p>自 八 百</p> <p>至 九 百</p> <p>自 一 千</p> <p>至 二 千</p>
<p>概</p> <p>要</p>	<p>同日ヤリ拒遠張放ノミ課ヲ整備ニ任ジツテ拒遠県大溝家附近ニ村末          依戦ノ下リノ陣地構築ニ實施</p> <p>秀樹才一男作戦訓誨ニ基テ、拒遠張放ノ境附近ノ南正討伐實施</p> <p>拒遠出張</p> <p>山東省竜口港收航、海路青島ニ前進</p> <p>青島上陸</p> <p>膠濟線ヲ打通作戦ニ参加</p> <p>山東省濰縣坊子附近ヲ整備</p> <p>ノ間、主クハ山東省巨野縣大嶺ニ在リテ同地附近ヲ整備ニ任ズ</p>

0080

0261





独立警備隊第六十五大隊略歴

通牒号 陸軍省一五七三五部隊

年月日	概略
昭 和 二 一 五 五	<p>編成完結日並編成ノ概要                      軍令陸甲才十八号（一才軍參編才一五五号）に依り昭和二十年五月十日編成下令                      中華民国山東省莒県に於て編成に着手                      同地に於て左の如き訂隊ヲ編成に完結す                      歴代大隊長官                      オン代 陸軍大尉 柴山 茂                      二 木下 静 庵</p>

0263



年月日	昭 示
概 要	<p>福山県 牟平貝 蓬萊県 文登県 棲霞県への警備並討伐南正に任 じたりも 秀嶺(四十三軍)一号作戦命令により 昭和二十一年五月下旬より終戦時に至る迄主打を以て福山県十里堡に 対峙陣地を構築すると共に 一部を以て周辺に討伐を継続実施せり 終戦より帰還復員迄の概要 作戦経過書發布 復員下令 停戦協定締結</p> <p>大隊は終戦と同時に兵団命令に依り逐次兵力を芝罘に集約し 芝罘撤去 艦船輸送により同日青島に到着上陸 青島港膠濟鉄道打通行作戦に参加 海潮着不後益都より朱疇迄に至る膠濟鉄道に警備並周辺に南正討伐 及復員軍人居留所の引揚振護に任ず</p>

大正三十四年  
七  
四十三

0265



年月日	昭 言 八 五
概  要	<p>大隊長更迭及人員補充現地隊隊召集解散ノ状況  大隊長 陸軍大尉柴山茂成海軍警備隊巡視の帰途、飛行機事故に依  り山東省牟平県西里泊附近に不時着、生死未明となす  陸軍大尉 木下静磨 大隊長として着任す  編成完結以來逐次方之、才十ニ軍及現地隊召着を以て人員を補充し  たす也、終戦後、昭和二十年八月三十一日、一日五名を現地隊召集解  隊、同年九月一日、二名を現地隊隊寸</p>

- 258 -

0267

その3 54内 北支

才四十三軍才十二独立警備隊

独立警備歩兵才六十六大隊略歴

師隊長 陸軍大尉 佐藤 章 治

年月日	昭 示 四
概	<p>編成の状況          上旬在小東省、即遷、独立混成第五旅団、独立歩兵才十七大隊に於て、編成に着手し、独立歩兵才十七大隊よりの一ヶ中隊、野戦補充隊よりの一ヶ中隊、独立歩兵才三三八十三大隊よりの一ヶ中隊及び才十一、十二軍より新編者をも以て本部、五ヶ中隊及銃砲の編成を完成す。</p> <p>五月十二日、秀嶺才一号作戦開始と共に、小東省萊陽県、海陽県地を警備の爲本部を萊陽に推進す。</p> <p>六月三十日現地召集者入隊す。</p>

年月日		概	
自 五 五	八 二	訂隊行動の概要	
八 三	八 三	某陽警備地は撤収	某陽警備地は撤収
八 三	八 三	高密に集結	高密に集結
九 八	九 八	該地附近の警備	該地附近の警備
九 八	九 八	膠濟線打通作戦の準備	膠濟線打通作戦の準備
九 八	九 八	完済都察院攻略後辛店附近の警備に任じ	完済都察院攻略後辛店附近の警備に任じ
一 一	一 一	難原地は警備を命ぜり	難原地は警備を命ぜり
一 三	一 三	中国が八軍に依り武装解除	中国が八軍に依り武装解除
一 三	一 三	甜梁出發	甜梁出發
一 三	一 三	青島某部	青島某部
二 二	二 二	青島出發	青島出發
二 二	二 二	佐世保護上陸	佐世保護上陸

七支  
 四十三

至	自	至	自	至	自	昭 和	年 月 日
二	一	百	百	九	八	五	五
一	一	百	百	九	八	五	五
四	三	三	三	三	三	三	三
<p>軍令第十八号（方陣整備第十一号）に依り、第十一独立警備作業隊編成着手</p> <p>中華民國山東省青島に於て編成完結</p> <p>山東省東部作戦に参加</p> <p>膠州戦打通作戦及整備に任ず</p> <p>山東省濰縣坊子附近に整備に任ず</p>							概
							要

第十四軍第十一独立警備隊

第十一独立警備作業隊

作業隊長 陸軍大尉 鈴木寅次



年 月 日	
概  要	<p>興斗詳報 特記すべき興斗詳報なし</p> <p>終戦より帰還迄の概要</p> <p>山東東部作戦に参加、山東省海陽県孫家存在に於て、村米陣地構築中 八月十四日停戦詔書發布され、不夜、膠州、打石、通作、戦地に警備に在 事し、引続き山東省濰県坊子附近に警備に在り</p> <p>昭和二十一年一月十四日武装解除</p> <p>今年一月二十五日、内地帰還のため青島に集結</p> <p>今年二月廿日、青島港出帆</p> <p>今年八月八日佐世保若上陸、帰還に至り 輸送回り事故なし</p>

昭和五十七年  
四月十三日

独立連射砲中隊略歴

部隊長 陸軍大尉 加藤 敏 雄

年月日	概略
昭和五十五年	<p>編成完結の状況 編成場所 編成 北支那八東省青南市 編成担任者 第五十九師團第五十四旅団長 陸軍少将 長 崎 勤 部隊長 陸軍大尉 加藤 敏 雄 兵力 一七名</p>

0272





迫良才十八大隊略歴

年月日	概	要
昭 三 五	大隊付方軍務編才一五号一軍令陸申才十八号に依り、太原に於て編成を命ぜられた。大隊長編淑担任官となり	
三 二 七	昭初二十日三月十五日、才一軍隷下才一四師団、独立歩兵才十旅団、独立歩兵才十四旅団より要員を集め、太原才一軍独立輜重才一聯隊内に本部を置き編成す。	
四 一 下	張店に宿駐を命ぜられた。三十日張店着、才五十九師団の隷下に入りしものり、尔後張店附近の警備に任ず	
五 一 下	才四十三軍新編に伴ひ才一軍の隷下に入りしものり、秀頼才一軍作戦に参加す。	
八 五 五	冀城の善、山東省歷城縣依村附近に陸軍築城に従事す	

ヤマト五八 内 支 四十三

年月日	概要
昭 三 八 三	八月十五日、大東亞戦争終戦に伴い蒙成を中止し、清南白馬山に集結附近の整備に任ず
九 五	北東蒙線打通のたりに第四十七師團の指揮下に入り、平原攻略作戦に参加、休後四十日に且り附近の整備、牛島夕潮以下三十三旅八路軍の攻撃を受け行方不明となる
五 五	復員となり清南白馬山に集結
三 五	森祥店附近状況を知り、第四十七師團の指揮下に一ヶ中隊を参加せしむ
二 一 五	武装解除
二 四	内地帰還のたりに清南白馬山出発
二 一 五	滬口着
三 二	青島港出帆
三 五	佐世保上陸
三 五	復員完結
三 五	内地帰還時、主計と有商し復員した一部部隊の略歴は省略す

自衛隊第十九大隊略歴

昭和二十一年一月二日  
 面談部隊名 秀嶺才一五七五〇部隊  
 部隊長 陸軍大尉 阿部晴男

年月日	
概	<p>昭 言 三 五</p> <p>部隊編成時の状況                      軍令陸甲才十八号に據り自衛隊第十九大隊臨時編成下令                      中華民国山東省泰安県泰安に於て編成完結                      編成完結時の於ける人員馬匹の状況左り如し                      人員大隊長以下八三五名                      馬匹 七一八頭</p>

才一五七五〇

外 北支

四十三

年月日											
概説	<p style="text-align: center;">編成の概説</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">大隊本部</td> <td style="vertical-align: top;">大隊長 陸軍大尉 阿部晴男 以下 一七四名 馬匹一三一頭</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">オ一中隊</td> <td style="vertical-align: top;">中隊長 陸軍中尉 原田晴太郎 以下 一六七名 馬匹一四二頭</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">オ二中隊</td> <td style="vertical-align: top;">中隊長 小林達司 以下 一七五名 馬匹一三八頭</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">オ三中隊</td> <td style="vertical-align: top;">中隊長 陸軍中尉 富川健治 以下 一七五名 馬匹一三九頭</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">大隊後列</td> <td style="vertical-align: top;">大隊後列長 陸軍中尉 武田桂治 以下 一七四名 馬匹一七八名</td> </tr> </table>	大隊本部	大隊長 陸軍大尉 阿部晴男 以下 一七四名 馬匹一三一頭	オ一中隊	中隊長 陸軍中尉 原田晴太郎 以下 一六七名 馬匹一四二頭	オ二中隊	中隊長 小林達司 以下 一七五名 馬匹一三八頭	オ三中隊	中隊長 陸軍中尉 富川健治 以下 一七五名 馬匹一三九頭	大隊後列	大隊後列長 陸軍中尉 武田桂治 以下 一七四名 馬匹一七八名
大隊本部	大隊長 陸軍大尉 阿部晴男 以下 一七四名 馬匹一三一頭										
オ一中隊	中隊長 陸軍中尉 原田晴太郎 以下 一六七名 馬匹一四二頭										
オ二中隊	中隊長 小林達司 以下 一七五名 馬匹一三八頭										
オ三中隊	中隊長 陸軍中尉 富川健治 以下 一七五名 馬匹一三九頭										
大隊後列	大隊後列長 陸軍中尉 武田桂治 以下 一七四名 馬匹一七八名										







大正三十九年  
 外  
 比  
 支  
 四十三

年月日	
概 要	<p>           解 二 一 二六 残務整理委員 陸軍大尉 阿部晴男 隊            二 二 五 残務整理委員 陸軍曹長 服田勇 召喚解除隊            三 二 五 召集十九大隊七三ノ復員完備         </p>

0280

0281

<p>至 自昭五 三 五 三 一 支</p>	<p>年月日</p> <p>概</p> <p>要</p> <p>部隊編成年月日並地點 昭和十五年三月二十四日 北支那河北省 北東</p> <p>歴代部隊長 才一代 陸軍大佐 中村 卯之助 " " 佐々木 藤次郎</p> <p>主として参加作戦 中原作戦 圍城附近</p>
------------------------	---

才四十三軍自動車才二十一聯隊略歴

通称号 香嶺才一八七五部隊

年月日	概
自昭 元 五 二 三 六	浙 五限 界作 作戦 杭州 金華 附近
自 八 九 三 七 〇	冀 西作 作戦 定興 阜平 附近
至 五 三 三 三	京 冀作 作戦 新鄉 鄭州 杞水 洛陽 附近
自 五 三 五 五	「 ロ」 号作 作戦 許昌 據城 南陽 附近
至 三 四 八 八	復 員完 結

支那の支 四十三

独立無線機自四十二小队略歴

面談部隊名 秀頼 〇三一三 大野隊  
 部隊長 陸軍少尉 福田 梅人

年月日	概略
昭和三十一年八月	<p>編成の概要                      司令陸軍中佐一男に依り独立無線機自四十二小队、臨時編成下令                      上海電信機自三十一部隊に於て電信機自三十一部隊無線機自十小队を基幹とし編成完結</p> <p>行動の概要                      自三十三年通信隊長に指揮下に入り                      上海電信機自三十一部隊に於て上海地区警備通信に従事</p>

0284

年月日	概
昭 三 〇 四 五	上海出發 徐州通運北支那方面軍司令官ヲ指揮下ト入リ
〇 四 六	〇四十三軍ヲ指揮下ト入リ
〇 四 六	濟南到着 〇四十三軍通信隊長ヲ指揮下ト入り同日より濟南地區警備通信ヲ從事
〇 五 五	全員齊集〇一〇作戦隊ニ參加作戦通信ヲ從事
〇 五 五	〇十三軍ノ戦斗序列より陳子〇四十三軍ノ戦斗序列ニ編入セリ
〇 五 三	至剛〇一〇作戦隊ニ參加下士官以下八名作戦通信ヲ從事
〇 五 三	停戦證書發布
〇 五 三	同日より軍連絡通信ヲ從事
〇 五 三	復員下令
〇 五 三	停戦協定締結
〇 五 三	濟南出發







支那の... 四十三

年月日	概
昭 三 八	行動の概要及其の日時兵力 任地派遣のあり、北営出發
三 二	下関港出帆
三 一	支隊連軍才十三軍の戦斗序列に編入 釜山港上陸
三 〇	上海到着才十三軍通信隊長の指揮下に入る
四 五	上海附近の整備に從事
四 五	上海出發
四 三	徐州通過、北支軍司令官の指揮下に入る
四 二	濟南到着、才四十三軍通信隊長の指揮下に入る
六 〇	才十三軍の戦斗序列を陳さ、才四十三軍司令官の指揮下に入り、 才四十五軍戦斗序列に編入せり
七 三	隊長、胸部受傷に依り才自五十五兵站病院に入院
八 五	停戦交渉發布

年月日	至 自	概 要
四 八	自 八 五	<p>青南附近ノ警備通信ニ従事</p> <p>又一(提原上并兵)カタル桂黄道バヨリ入院</p> <p>下士官ニ 又五 電信オニニ九聯隊オ六中隊ニ転属</p> <p>下ニ 又一〇 電信オニニ九聯隊オ六中隊ヨリ転入</p> <p>隊長入院ノ儘オ四十三軍司令訂バ転属</p> <p>電信オニニ九聯隊オ六中隊ヨリ隊長補任ノため科校ニ転入</p> <p>青南ニ於テ通信連絡ニ従事</p> <p>折南出發</p> <p>青島ニ於テ復員業務通信連絡ニ従事</p> <p>内地帰還ノため青島港出帆</p> <p>佐也保港上陸</p>
三 八	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	
三 三	自 八 五	

支 四十三

第六十四回定無線隊略歴

団長 有線第一四七一訂隊  
 副隊長 陸軍中尉 近藤 英 輔

年月日	概
昭 三 三 一	部隊行動の概要
三 八	大阪信太山才一無線電信補充隊にて編入免給 大阪発
三 二	上海才十三軍の採下にて入り通信業務に従事
四 二	清南才四一三軍に配属
四 六	命を受け上海発 清南着 警備通信に従事
	終戦後、昭和二十一年二月より号誌に一新布置、連絡通信に従事

	年 月 日
<p>             昭和三十四年五月七日              青島出帆              佐世保到着帰還寸              復員完結              昭和三十一年五月三日              陸軍中尉 近藤 英 輔           </p>	<p>             概              要           </p>

286

0291

その三の六ニ外内 北支

才四十三軍才百五十五兵站病院略歴

陸軍軍医大佐 野坂勝治

年月日	概略
昭 三 一 五	<p>編成完了の概況</p> <p>軍令陸甲才一八号に依</p> <p>中華民国山東省濟南に於て 濟南陸軍病院復員を完了</p> <p>同地に於て才百五十五兵站病院の編成を完了す</p> <p>行動の概要</p> <p>部隊復員實施の爲 左の如く区別行動す</p> <p>才一 回</p> <p>濟南出發</p> <p>青島出發</p> <p>佐世係上陸</p>



才百六十五兵站病院略歴

印成兵 陸軍軍医下佐 青木 善三

年月日	昭 三 五
概 要	<p>縮成院作の状況          中韓民国山東省青島に於て、青島陸軍病院を才百六十五兵站病院に          改編せり。其の人員資料全部を之に充用。同日縮成を完結。現在          に至り。</p> <p>行動の概況及び其の日時          当院は本院を青島に、分院を青島及び坊子に、患者療養所を三原の          南嶺中ノ処、終戦に伴ひ三原患者療養所は昭和二十一年八月二十五日          本院に集結</p> <p>坊子分院は昭和二十一年一月二十五日青島分院に集結</p>



年 月 日	
概  要	<p>         患者の診察、内地昇還並に復員部隊（引揚民）の乗船地検査并の紫          稀七統行し患者を内地運送し御免、部隊員の一部を護送し任せしめ          昭和二十一年四月十日現地に於ては、士国側り取扱を完了復員準備          中昭和二十一年四月二十一日乗船          同日二十一日青島港出帆          五月二日佐世保に上陸、茲に各自之十五安站病院復員し、匿かとなら       </p>



年月日	概
昭三 一 三	<p>行動ヲ概受  山東省青島港にて出帆  レバ下ハ〇七八乗船  同老出航  佐世保上陸  針尾陸安團ハ二泊 患者五〇五名中 陸軍患者三〇名 陸軍復員部  に引渡  女子草履四名以上陸時運送附備  残四七一名ハ二月五日夕泊米原新ハ運送 護送任務ヲ完了  護送員ハ天台府界別ハ引奉者定カ隔断セシメナリ  輸送間ハ事故  死亡行方不明者ナシ  内地帰還時ニカヒ分商し復員シタ一部部隊ハ略登時首略也</p>

年月日	
概要	<p>三 五 編成完了の状況 山東省城陽縣兗州に於て編成を完了す 本県内地に在りて患者の牧養業補に在りて 行動の概勢 昭和二十一年 青嶺伝奇丙才五号に基き四月二十五日山東省眼身業在 に患者療養所を開設 六 五 之正内鎖十 停戦証書發布 八 四 停戦協定締結に伴い 兵器 資材 土地建造物の中国側に付す 九 二 収七完了</p>

才百九十七五站病院附室

印隊長 區津軍医少佐 瑞川 繁

年月日	概要
四	收容患者を搬送し駐屯地山東省旅陽縣兗州出發
五	濟南省收容患者を濟南才白五丁車站病院へ搬送するに於て、病院兵以下全員を該病院リ業務補助と爲す
二	遷送患者護送員として濟南出發
六	青島省
四	青島省
五	博多老上陸国立病院兼病院へ患者の引継を了す 遷送患者引継人員 三四六名 病院兵 湯川榮以下一三〇名隊召集免官解雇備

0080

0299

駐蒙軍司令部部隊略歴

部隊長官氏名 陸軍中将 根本博

年月日	概要
昭三 一 一八	部隊編成終結及行動概要
六 三	駐蒙軍司令部編成下令
七 四	編成終結
一四 九 四	軍令陸甲才三四号に依り
編成改正下令	
編成終結	
自三 一 一八	張家口に位置し
至三 八 三	蒙古政府の養成並に治安警備に任ず
自三 八 三	
至三 二 三	八月二〇日張家口を撤退

0300

年月日	概	要
昭和三〇・二・二八	<p>二月二十一日 南口到着          八月三十日 戦斗司令部を北支那方面軍司令部内に          一部を北平北郊清河鎮に置き治安警備に任ず          復員帰還の状況          内地帰還の為          北平出張</p>	
三三	<p>天津貨物廠に集結し帰還準備を為す          鈴木大佐の引率に依り(軍司令部は方面軍司令部参謀長の          各参謀は方面軍司令部勤務)</p>	
三八	<p>塘沽出張</p>	
<p>紀正保上陸          夫々予備校編入 若は召集解除せらる          本隊の状況</p>		
三三	<p>司令官、幕僚並十数名の勤務着を除き帰還したる所</p>	
三一	<p>二月一日 参謀長と参謀全員紀正保に帰還す</p>	